

平成31年度 国語科

教科	国語	科目	前期：国語総合 後期：現代文B	単位数	国総：1 現B：1	年次	1年次
校内名称	現代国語（現国）			ユニット数	1.5	必選別	必
使用教科書	国語総合 改訂版 現代文編 大修館書店						
副教材等	新国語便覧（大修館書店） 新成現代文2（尚文出版） 現代文単語（桐原書店） 大学入試に出た核心漢字2500＋語彙1000（尚文出版）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>〈現代文とは〉</p> <p>現代文という科目は、様々なものの見方や、近現代とはいかなる時代であるのかを学び、学んだことを基盤として多面的に物事を考える能力を身につけるための科目である。そのためには文章を正確に読み取り、筆者の言わんとしていることを正しくつかむ必要がある。そしてそれを書いたり話したりして、人に間違いなく伝わるように表現しなくてはいけない。様々な文章を読んだり聞いたりする中で、筆者や話者、場合によっては出題者とコミュニケーションをとり、自分の中には存在しなかった物の見方・考え方に触れ、考えを深めて大きくなってもらいたい。</p> <p>〈漢字・現代文単語の学習について〉</p> <p>新たな漢字・新たな言葉を知るということは、新たな概念を得ることである。それは即ち、自らの思考の枠組みを広げ、抽象的思考能力を育む行為なのである。単に漢字・用語を丸暗記するのではなく、きちんとそれらの意味を理解した上で使えるようにして、読解力やコミュニケーション力の向上に役立ててもらいたい。</p>

2 学習の到達目標

<p>現代を知る上で必要不可欠な、言語論・科学論・芸術論・近代論など様々なジャンルの文章を丁寧に読解し、自分の頭で考え、必要に応じて言語で表現する。漢字・現代文単語の学習にも随時取り組み、一生ものの読解力（聞き取る力も含む）と表現力（書く力・話す力）を身につける。</p>
--

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 話す・聞く能力	c: 書く能力	d: 読む能力	e: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書くことができる。	文章を的確に読みとり、自分の考えを深め、発展させている。	漢字や現代文単語、現代思想について理解し、知識を身につけている。
評 価 方 法	授業態度、提出物	議論、発表等	提出物、定期考査	定期考査	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。

【評定の出し方】前期は「現国」と「古典」を合算して「国語総合」として成績を算出するが、後期は「現代文B」として成績を算出する。

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容(授業教材)	主な評価の観点					単元(題材)の評価基準	評価方法
			a	b	c	d	e		
前期中間 調査まで	評論①②、 小説①	○評論「人は独創的でありたいか」 小熊英二 ○小説「羅生門」芥川龍之介 ○評論「ヘンデルと力士」吉田秀和 ○漢字・単語・問題集		○		○	○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 d：高校レベルの文章を読みとることができている。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度 提出物 定期調査
前期期末 調査まで	評論③④、 小説②、 詩①	○評論「他者を理解すること」 鷺田清一 ○小説「鏡」 村上春樹 ○評論「言葉についての新しい認識」池上嘉彦 ○詩「贅のうへ」「自分の感受性くらい」 ○漢字・単語・問題集		○		○	○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 c：読みとった内容を元に、自らの考えを書くことができる。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度 提出物 定期調査
後期中間 調査まで	評論⑤、 小説③④	○随想「おまえはやって来た」田中真知 ○小説「城崎にて」志賀直哉 ○小説「良識派」安倍公房 ○漢字・単語・問題集		○	○		○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 b：自らの解釈を積極的に発表し、議論できている。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度 提出物 定期調査
後期末 調査まで	評論⑥、 小説④、 短歌①	○評論「意味と身体」内田樹 ○評論「かわいい現象」四方田犬彦 ○短歌 ○漢字・単語・問題集		○		○	○	a：言語や現代思想に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 c：読みとった内容を元に、自らの考えを書くことができる。 e：自習教材を確実に理解できている。	授業態度 提出物 定期調査

※ 表中の観点について a：関心・意欲・態度 b：話す・聞く能力 c：書く能力
d：読む能力 e：知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点にのみ○をつけている。

平成31年度 国語科

教科	国語	科目	前期：国語総合 後期：国語総合・古典B	単位数	前期 国総：2 後期 国総：1古B：1	年次	1年次
校内名称	古典			ユニット数	2.5	必選別	必
使用教科書	国語総合改訂版古典編（大修館書店）						
副教材等	体系古典文法（数研出版）、精選漢文（尚文出版）、力をつける古典ステップ2（数研出版）、トータルサポート新国語便覧（大修館書店）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>古典は偉大な先人達の、歴史の波に揉まれながらも残った素晴らしい言葉であり、現代の我々が読んで未来への糧とするものである。「昔も現代と同じだ」「昔は現代とこんなに違うのか」など、いろいろな感想を持ちつつ様々な価値観を知り、人間について深く考えてほしい。また国際化が進む現代だからこそ、日本の文化やその源流にある文化について学び、異なる文化をもつ人々に自分を語れるようになってほしい。</p> <p>ある意味外国語なので、英語と同じように勉強するとよい。つまり予習・授業・復習のサイクルを守り、毎日触れるのである。最初は苦しいが、読めるようになると面白い楽しい。</p> <p>予習…音読して本文を写し、辞書・文法書・漢文学習書などを使って訳してみる。完全な訳でなくていいので、「どこが分からないのか」「何がわかれば訳せるのか」を把握しておく。</p> <p>授業…集中して授業に参加し、自分の頭で考え、板書していなくても必要なことはノートに書く。</p> <p>復習…その日のうちに、ノートを見ながら内容を確認し本文を音読する。しばらく経ってからまたノートを見返して、重要事項の確認や音読をする。</p> <p>音読や暗唱をすることは、古典のリズムや言語感覚を身体で捉えることに繋がり、読解のための一番の近道となる。また辞書は、言葉の持つそれぞれの歴史や物語を覗くことができ、教養を深めるために大切である。初めは面倒に感じても、音読や辞書を引くことを習慣にしておこう。</p>

2 学習の到達目標

<p>古典の作品を自力で読解できるようになるには時間がかかる。いくつもの段階を踏んで、3年間かけてなんとか読めるようになってくるものである。最初の1年は重要文法事項や重要漢文句形などの基本を、きちんと身につけることが到達目標となる。</p>
--

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 話す・聞く能力	c: 書く能力	d: 読む能力	e: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的・意図に応じた適切な表現を使って文章を書くことができる。	文章を的確に読みとり、自分の考えを深め、発展させている。	言語や古典文学について理解し、知識を身につけている。
評 価 方 法	授業態度、提出物	議論、発表等	提出物、定期考査、小テスト	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。

【評定の出し方】前期は「現国」と「古典」を合算して「国語総合」として成績を算出するが、後期は「国語総合」「古典B」として成績を算出する。

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容(授業教材)		主な評価の観点					単元(題材)の評価基準	評価方法
		古文	漢文	a	b	c	d	e		
前期 中間 期末 まで	読解の基礎	○古文入門 「宇治拾遺物語」 ・絵仏師良秀 「徒然草」 ・ある人、弓射ることを習ふに ・高名の木登り ○体系古典文法 ・古典文法入門 ・活用のある自立語 ○問題集	○漢文入門 「訓読の基本」 「故事成語」 ・蛇足 ○精選漢文 ・基礎編	○				○	a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 e：古典の読解に必要な基本の文法知識を身につけている。	授業態度、提出物、定期考査、小テスト
前期 期末 まで	文章読解①	○物語 「伊勢物語」 ・あづま下り ・筒井筒 ○体系古典文法 ・助動詞① ○問題集	○史話 「十八史略」 ・先従隋始 ○精選漢文 ・句法編 (否定形、反語形、使役形、抑揚形) ○問題集	○				○	a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 d：習得した文法知識や句形を使って、易しい古文・漢文を読解することができる。	授業態度、提出物、定期考査、小テスト
後期 中間 期末 まで	文章読解②、和歌	○日記 「土佐日記」 ・門出 ・帰京 ○小倉百人一首 ○体系古典文法 ・助動詞② ○問題集	○唐代の詩文 ○唐代の文章 ・雑説 ○精選漢文 ・句法編 (部分否定、全否定、受身形、詠嘆形) ○問題集	○				○	a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 c：現代語訳や和歌の解釈などを通して読みとった内容を、的確に表現することができる。	授業態度、提出物、定期考査、小テスト
後期 期末 まで	文章読解③	○軍記物語 「平家物語」 ・木曾の最期 ○小倉百人一首 ○体系古典文法 ・助詞 ・敬語 ○問題集	○思想 ・「論語」 ・「孟子」 ○精選漢文 ・句法編③ (比較形、限定形、仮定形) ○問題集	○	○				a：言語や古典文学に対する関心を持ち、積極的に知識を得ようとしている。 b：文章の内容や背景について議論し、考えを深めることができる。	授業態度、提出物、定期考査、小テスト

※ 表中の観点について a：関心・意欲・態度 b：話す・聞く能力 c：書く能力
d：読む能力 e：知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点にのみ○をつけている。

平成 31 年度 地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史A	単位数	2 単位	年次	1 年前期
校内名称	世界史A			ユニット数	1 年前期 1.5	必選別	必修
使用教科書	「要説世界史」 (山川出版社)						
副教材等	最新世界史図説 タペストリー (帝国書院)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

「世界史を学ぶ」ということは、いろいろなところに「とっかかり」を持つことでもある。本を読んでも、音楽を聴いても、テレビを見ても、あるいは美術館に行っても、世界史を知っているかどうかで、そのおもしろさは大きくかわってくる。様々なことに興味が湧き、人間としての幅を広げることにもつながる。また、現在、世界で起こっている出来事に対する理解も深まるはずである。歴史科目はどうしても「暗記」だと思いがちだが、名前だけを覚えても意味はないし、第一、おもしろくない。歴史を流れとして捉え、起こった出来事の背景や原因、影響などを考えながら授業を受けてほしい。歴史に関する本を読むことも、世界史への理解を深めるのに役立つ。小説でも世界史関連の本がたくさんあるので、まずは読みやすいものから始めてみるのもよいだろう。

2 学習の到達目標

1 年後期からの世界史では、時代区分的に古代と呼ばれる範囲を地域を変えながら学ぶ。中国、インド、地中海の西側一帯のオリエント、ギリシア・ローマ、を学ぶ。その中で、秦・漢帝国、マウリヤ朝、アケメネス朝ペルシア、ローマ帝国などの具体例に触れ、古代の時代が「大帝国」というキーワードでくくれること、地域は異なっているが古代共通の制度や事件があることを学びつつ、歴史は比較検討する学び方もあることを知る。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に学習に取り組んでいる。	現在の世界で起こっている問題を、歴史的な観点から考察し、公正に判断して、それを適切に表現する。	世界の歴史に関する様々な資料から、必要な情報を選択し、活用する。	世界の歴史についての基本的な知識を身につけ、地理的な条件や日本の歴史と関連付けて理解する。
評 価 方 法	授業態度 (積極的に参加しているかなど) 「世界史 興味・関心 Sheet」の提出	授業態度 (質問に対する答えなど) 定期考査 「世界史 興味・関心 Sheet」の提出	「世界史 興味・関心 Sheet」の提出 定期考査	授業での発言 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に 5 段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点 95% 程度、平常点 5% 程度です。

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1年 後期中間 調査まで		<ul style="list-style-type: none"> ・文明のあけぼの ・中国古代史 中国の古代文明(黄河文明など) 殷・周(都市国家から領域国家へ) 秦・漢(中国の古代帝国) ・古代オリエント シュメールからアッシリア アケメネス朝(オリエントの古代帝国) 	○			○	a: 授業で積極的に発言し、ノートを写す際も、自分なりに工夫する。 d: 基本的な歴史用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 定期調査
1年 後期期末 調査まで		<ul style="list-style-type: none"> ・地中海の古代文明 古代ギリシア 古代ローマ ・インドの古代文明 インダス文明 マウリヤ朝の成立 		○	○	○	b: 学んだ知識を現在の世界と結びつけて考察する。 c: 「興味・関心 Sheet」で、資料を活用し、かつ、自分の考えや判断を表現する。 d: 基本的な用語を記憶し、それを他の事象と関連付けて、歴史の流れを理解している。	授業態度 世界史「興味・関心 sheet」 定期調査

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
 c: 資料活用の技能 d: 知識・理解

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○を付けている。

平成31年度 公民科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2単位	年次	1年次
校内名称	現代社会			ユニット数	1.5	必選別	必
使用教科書	改訂版 現代社会 (数研出版)						
副教材等	新版最新現代社会資料集2019 (第一学習社) 現代社会整理ノート(数研出版)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

中学校の3年では公民分野を学習し、日本国憲法や政治制度、経済のしくみや社会のさまざまな問題について学習し、知識や関心を養ってきたことでしょう。高校1年の「現代社会」では、これまでに学習してきた内容をもう少し深く幅広く学習することになります。また、新たに倫理的な分野の学習も入ってきます。これから学習する公民科の政治・経済の分野と倫理的な分野は、いずれもより良い社会の実現をめざし、私たちが幸せに生活できることを目標に学習する科目です。

したがって、重要なことは、自分自身で考えてみることにあり、そのためにさまざまな現実の社会事象や考え方に触れてみることにあります。近い将来の大学受験に合格することも大事ですが、そのための学問的な知識だけではなく、心掛けてください。ノートの空欄をうめて語句を暗記することが現代社会の学習ではありません。現実にも目の前で起こっているさまざまな事象に目を向けて、興味・関心をもつようにしましょう、その結果として受験知識も良く身につくはずですが(これは公民科に限ったことではありませんが)。そのためには、まずは毎日、新聞を読み、テレビのニュースを見、インターネットで検索しましょう。そして「自分の理性」で考えてみましょう。

2 学習の到達目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方・生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 資料活用の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	現代社会の基本問題と人間に関わることがらに 対する関心を高め、意欲 的に課題を追求するとと もに、社会的事象を総合 的に考察しようとする態 度と平和で民主的なより よい社会の実現に向けて 参加、協力する態度を身 につけ、現代社会におい て主体的に生きる力を養 おうとする。	現代社会の基本問題 と人間に関わる事柄か ら課題を見だし、社 会的事象の本質や人間 としての在り方生き方 について幅広い視野に 立って多面的・多角的 に考察し、学習で得た 知識を基本として用 い、さまざまな立場や 考え方を踏まえなが ら、公正に判断して、 その過程や結果を適切 に表現している。	現代社会におけるさま ざまな問題や人間に関わ る事柄に関する資料を、 マスメディアやインター ネットなどを通して収集 し、有用な情報を適切に 選択して、正しい分析方 法を用いて効果的に活用 している。	現代社会の基本的問題 と人間としての在り方生 き方とに関わる基本的な 事柄や学び方を理解し、 その用語や内容について の正しい知識を身につけ ている。
評 価 方 法	ワークシート (ワークシートにはプリ ント・ノートの評価も含 みます(以下同)) レポート 授業の参加態度	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート レポート	定期考査
上 に 示 す 観 点 に 基 づ い て 、 学 習 の ま と ま り ご と に 評 価 し 、 学 年 末 に 5 段 階 の 評 定 に ま と め ま す。 評 価 点 の 割 合 は 、 考 査 点 9 5 % 程 度 、 平 常 点 5 % 程 度 で す。				

平成31年度 保健体育科

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3単位	年次	1年次
校内名称	体育A・体育B			ユニット数	2.5/2.0	必選別	必修
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）						
副教材等	Active Sports（大修館）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会的に健康に関心が高まる一方、体を動かしたり、スポーツをする機会は減少し、二極化しているのが現状である。しかし、一生涯使い続ける体を鍛え、育てる時期は今しかない。この時期にこそ正しい体の動かし方や鍛え方、整え方を身に付け、様々な体力を養っていくことが必要である。また、授業を通して仲間とのコミュニケーション力や共に協力して課題を解決していく力を身に付けることも重要である。更に、より分析的に運動を捉えることで、今まで出来なかった事が出来るようになったり、各種目の本質的な楽しさに触れることで豊かなスポーツライフを築くことが出来るのである。

2 学習の到達目標

各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。特に1年生においては、体づくり運動にも重点をおき、自分や仲間の体や心の状態に気付いたり、体の調子を整えるとともに総合的に体力を向上させることを目標とする。また、技能的には各種目において主に個人的技能を高めることに主眼をおくものとする。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断	c: 運動の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	受身の授業ではなく、常に積極的に授業に取り組む事が大切である。出来る出来ないではなく、いかに前向きに取り組むかということである。また、授業に取り組む中で、周囲の仲間の力量や身体の特徴を判断していく事も集団で活動する上では重要である。仲間と協力して、安全にかつ各種目の特性に触れ、運動の楽しさ味わう。公正・協力・責任・参画などの態度を身に付ける。	知識を活用し、技能の向上につなげる。自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組みを工夫できる。運動を継続したり、体力や技能向上のための計画を考えることができる。学習で得た成果を自ら応用・発展させ、生涯にわたって、運動に親しむことができる。	記録や技能向上に挑戦する。運動の合理的な実践を通して、種目特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現するための各領域の運動特性に応じた段階的な技能を身に付ける。仲間と協力して各種目を楽しむ。	運動の技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法を理解する。スポーツの歴史、文化的特性、スポーツとの関わり方について理解する。
評 価 方 法	・出席 ・受講態度 ・レポート 等	・レポート ・体育理論のテスト 等	・技能観察 ・技術テスト ・レポート 等	・レポート ・体育理論のテスト ・技能観察 等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、関心・意欲・態度50%程度、思考・判断・技能・知識50%程度。				

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間 期末 考査まで	武道 ／ ダンス ・ 陸上 ・ 器械運動	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動 ・新体力テスト ・武道(柔道) ・ダンス ※選択 <ul style="list-style-type: none"> ・陸上 短距離・投擲 ・器械運動 ※選択 接転技・本転技・演技構成	○	○	○	○	a: 集団行動や周囲と協力して課題に取り組むことができる。武道の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手を尊重することができる。自己や他者の身体の特性を理解し、安全に運動を行っている。 b: 自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。 c: 各種目の特性に応じた技能や表現方法を獲得しようとしている。 d: 技術や技の名称、練習・補助方法、表現の仕方などを理解している。	受講態度の観察 テスト 技能観察 レポート
前期 期末 考査まで	水泳	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳 クロール・平泳ぎ ・体育理論 文化としてのスポーツ オリンピックと国際理解 	○	○	○	○	a: 水泳の楽しさや喜びを味わう。マナーやルールを大切に、水泳の事故防止に留意し、積極的に自己の泳力向上に取り組んでいる。 b: 生涯にわたって水泳に親しむため、課題に応じた取り組みを自ら考え実践している。 c: 水泳の特性を理解し、効率的な泳法を身に付けている。 d: 技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	受講態度の観察 テスト 技能観察 レポート
後期 中間 考査まで	水泳・ 武道 ／ ダンス ・ 球技	<ul style="list-style-type: none"> ・武道(柔道) ・ダンス※前期に選択した種目 ・ゴール型／ネット型 バレー・バスケット・サッカー ハンドボールから選択 	○	○	○	○	a: 各種目の楽しさや喜びを味わうことができるよう、相手やルールを大切に。グループでの構成や、チームの作戦などの話し合いに積極的に参加している。 b: 演技の構成を工夫したり、技の掛け方や、運動の取り組み方を自分たちで考えて実践している。 c: 各種目の特性に応じた技能や技術を身に付ける。身に付けた技能を発表や、試合で生かしている。 d: 技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	受講態度の観察 テスト 技能観察 レポート
後期 期末 考査まで	陸上 競技 (長距離) ・ 選択 スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上 長距離走 ・選択スポーツ ・体育理論 スポーツと経済 ドーピングとスポーツ倫理 	○	○	○	○	a: 長距離走の楽しさや、記録が向上する喜びを味わうことができるよう、健康や安全を確保して、自主的に取り組んでいる。 b: 生涯にわたって運動に親しむための、自己の課題を理解する。自分たちで運動を計画し、公正・安全に実施する工夫や協力を行うことができる。 c: 各種目の特性に応じた技能を身に付け、記録を向上に挑戦している。 d: 技術の名称や、ルールを理解し、実践しようとしている。	受講態度の観察 テスト 技能観察 レポート

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断 c: 運動の技能 d: 知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 保健体育科

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1単位	年次	1年次
校内名称	保健			ユニット数	1	必選別	必修
使用教科書	現代高等保健体育 大修館書店						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

科目「保健」は、生涯を通して健康を考え、健康を確保することでさまざまな自己実現が図られる生活の根幹を成す科目だと考えます。我が国の疾病構造や社会の変化に対応し健康を保持増進するためには、ヘルスプロモーションの考え方を生かして健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び健康的な社会環境づくりをおこなうことの重要性の理解が必要です。成長期の今、自分自身の将来の健康を確保するための知識を習得し、その知識を生かすための実践力を身につけると、それが日々を快適に過ごしていくために必要なことを学びます。

学習方法については、「現代社会」「人の生涯」という観点から、課題を探し現状を把握しながら問題を解決していこうとすることで、自らの成長や日々の暮らしに役立てていってほしいと思います。知識の習得のみにとどまらず、課題を解決していく方法を、地域や社会の中から探す力を育成するためにホームページ・新聞などから「健康に生きる」ための情報を活用します。ただ聞くだけ、板書を書き写すだけの受身の授業ではなく、自ら関心を持って情報を集め議論できる姿勢をもつことが大切です。また、ノートのまとめ方は、教科書中心ではあるが板書だけでなく、自分なりに工夫をしてまとめていきましょう。

2 学習の到達目標

- ①健康・安全について理解する。
- ②健康問題の解決方法を身につける。
- ③生涯にわたる健康の保持増進の基礎を身につける。
- ④健康の保持増進のための実践力を身につける。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断	d：知識・理解
観 点 の 趣 旨	健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、個人及び社会生活における健康・安全課題について、意欲的に学習に取り組もうとする。	健康を保持増進するための課題や個人生活及び社会生活における健康・安全課題についての解決をめざして、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え判断し、それらを表している。	健康を保持増進するための課題や個人生活及び社会生活における健康・安全課題の解決に役立つ健康・安全課題の解決に役立ち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。
評 価 方 法	・授業態度 ・小テスト ・ノート提出 ・ディスカッション等の事例を用いた活動 ・実習 等	・定期テスト ・小テスト ・ディスカッション等の事例を用いた活動 ・ロールプレイングによる班別発表等 ・実習 ・成果物 等	・定期テスト ・小テスト ・ディスカッション等の事例を用いた活動 ・ロールプレイングによる班別発表等 ・実習 ・成果物 等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点80%程度、平常点20%程度です。			

4 学習の活動

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間 考査まで	現代社会と健康	1 私たちの健康のすがた	○		○	a:健康の考え方と成り立ちについて、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動や健康に関する課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:健康の考え方と成り立ちについて、資料等で調べたことを基に、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。また、学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較、分類、分析等をしている。 c:健康の考え方は国民の健康水準や疾病構造の変化に伴って変わってきていること、健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の元に成り立っていること健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることについて理解し、健康の保持増進のために調和のとれた生活を実践する必要があることを発言、記述したりしている。	・ノート ・成果物
		2 健康のとらえ方		○	○		
		3 健康と意志決定・行動選択	○	○			
		4 健康に関する環境づくり	○		○		
		5 生活習慣病とその予防		○	○		
		6 食事と健康	○	○	○		
		7 運動と健康	○	○	○		
		8 休養・睡眠と健康	○	○	○		
前期期末 考査まで		9 喫煙と健康		○	○	a:健康課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:学習したことを、個人及び社会生活や事例などと比較、分析、評価したりするなどしている。また道筋を立ててそれらを説明している。 c:様々な課題が与える影響は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから個人や社会への対策が必要であること、感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて理解したことを発言、記述したりしている。	・ノート ・成果物 ・ロールプレイングによる班別発表等
		10 飲酒と健康		○	○		
		11 薬物乱用と健康	○	○	○		
		12 現代の感染症		○	○		
		13 感染症の予防		○	○		
		14 性感染症・エイズとその予防		○	○		
後期中間 考査まで		15 欲求と適応機制	○		○	a:精神の健康について資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動や課題の解決に向けての話し合いや意見交換、体験活動などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:精神の健康について資料等で調べたことを基に、整理したり、自分の考えを導き出し、道筋を立ててそれらを説明したりしている。また、学習したことを個人及び社会生活や事例と比較、分析、評価している。 c:精神と身体には密接な関連があること精神の健康を保持増進するには、問題に適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることについて理解したことを発言、記述したりしている。	・ノート ・成果物 ・ディスカッション等の事例を用いた活動
		16 心身の相関とストレス		○	○		
		17 ストレスへの対応		○	○		
		18 心の健康と自己実現		○	○		

後期中間 後期期末 生涯を通じる健康	現代社会と健康	19 交通事故の現状と要因	○	○	<p>a:交通事故に現状、交通社会に必要な資質と責任について、資料をさがしたり見たり、読んだりする学習活動や、安全な社会作りや課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>b:交通事故の現状、交通社会に必要な資質と責任、安全な社会づくりについて資料等で調べたことを基に、整理したり、自分の考えを導き出し、道筋を立てて説明したりしている。また、学習したことを個人及び社会生活や事例と比較、分析、評価している。</p> <p>c:交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などが関わること、交通事故には責任や補償問題が生じることについて、理解したことを発言、記述したりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・成果物 ・ディスカッション等の事例を用いた活動
		20 交通社会における運転者の資質と責任	○	○		
		21 安全な交通社会づくり	○	○		
		22 応急手当の意義とその基本	○	○	<p>a:応急手当、心配蘇生法について、資料をさがしたり見たり、読んだりする学習活動や、安全な社会作りや課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>b:応急手当、心配蘇生法について資料等で調べたことを基に、課題を見つめたり、整理したりするなどして、それらを説明している。また、学習したことを比較、分類、分析等をしている。</p> <p>c:適切な応急手当は生涯や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には正しい手順や方法があるということ、心配蘇生等の応急手当は生涯や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることについて、理解したことを発言、記述している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・成果物 ・ディスカッション等の事例を用いた活動
	23 心肺蘇生法	○	○			
	24 日常的な応急手当	○	○			
	生涯を通じる健康	1 思春期と健康	○	○	<p>a:思春期と健康、結婚生活と健康について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>b:思春期と健康、結婚生活と健康について学習したことを、個人及び社会生活や事例などを比較、分類、分析したりなどしている。</p> <p>c:生涯にわたって健康を保持増進するためには、生涯の各段階に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることについて理解したことを発言、記述している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・成果物 ・ディスカッション等の事例を用いた活動
	2 性意識と性行動の選択	○	○			
	3 結婚生活と健康	○	○			
	4 妊娠・出産と健康	○	○			
	5 家族計画と人工妊娠中絶	○	○			

※ 表中の観点について a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断 c : 知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成31年度 芸術〔音楽〕

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	高校生の音楽1 (教育芸術社) 309						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・主に、歌唱（合唱を含む）・器楽（リコーダー、ギター、和楽器等の）演奏実技・音楽理論・鑑賞を柱に学習する。 ・音楽Ⅰ、音楽Ⅱは連続履修を原則とするが、進路等の理由で選択変更もあり得る。音楽系の進路を考えている生徒は早めに担当者に相談に来ること。 ・選択者へアンケートを実施し、生徒の状況及び実技レベル等により、適切に教材を選択する。
--

2 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 表現の創意工夫	c: 表現の技能	d: 鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評 価 方 法	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取 確認筆記テスト	観察 提出物
上に示す観点に基づいて、a:10%、 b・c・d:90%の割合で評価し、5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	歌唱(斉唱・二重唱)	【歌唱】 発声法 校歌 世界各国の歌	○	○	○		a:歌う喜びを味わい、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、その雰囲気や特質を感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように歌うか、表現意図をもっている。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	リコーダー演奏・(独奏・合奏)	【器楽】 各種リコーダーの奏法・特徴を理解して演奏する。	○	○	○		a:アンサンブルに関心を持ち、その持ち味を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音色やリズムを知覚し、特質や雰囲気を感じ、どのように演奏するか表現意図をもっている。 c:表現したいことを伝えるための器楽演奏の技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	和楽器	【和楽器】 箏曲を中心に演奏と鑑賞	○	○	○	○	A 和楽器の音色や奏法の特徴に関心を持ち、主体的に取り組んでいる。 b:音色やリズムなどの要素を知覚し、特質や雰囲気を感じ、表現に工夫の意図をもっている。 c:音色や奏法の特徴を生かした技能を身に付け、創造的に演奏している。 d:音楽を形づくっている要素を知覚し、特質や雰囲気を感じながら、音楽に対する理解を深め、美しさを感じている。	観察 演奏の聴取
	合唱	【混声三部合唱以上】 発声・パート練習	○	○	○		a:歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりに関心を持ち主体的に取り組もうとしている。 b:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:音楽表現するために必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取

	音楽理論	【楽典】 音符・標記法 音程 音階	○		○	a:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、主体的に取り組もうとしている。 c: イメージに沿った旋律やリズムの組み合わせ方、記譜の仕方など必要な創作技能を身に付けている。	観察 確認テスト
後期	器楽	【器楽演奏】 ギター演奏の 基本技術 ギター合奏 器楽小合奏	○	○	○	a:アンサンブルに関心を持ち、その持ち味を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音色やリズムを知覚し、特質や雰囲気を感受し、どのように演奏するか表現意図をもっている。 c:表現したいことを伝えるための器楽演奏の技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	合唱	【混声四部合唱】 発声・パート 練習	○	○	○	a:歌詞が表す情景や心情、楽曲の背景との関わりに関心を持ち主体的に取り組もうとしている。 b:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 c:音楽表現するために必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	グループ発表(創作を含む)	【自由発表】	○	○	○	a:イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 b 雰囲気を感受しながら、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもっている。 c:表現したいことを伝えるための器楽演奏の技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取

※ 表中の観点について a:音楽への関心・意欲・態度 b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能 d:鑑賞の能力

※ 原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の3観点で、「鑑賞」の分野は a, d の2観点で評価をする。

※ 年間を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容(題材)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

平成31年度 芸術科

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2 単位	年次	1 年次
使用教科書	高校生の美術 1 (116 日文) 美 I 305						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎の確認と課題制作をするとともに、相互鑑賞をおこないます。日本・西洋の美術史の流れや、美術作品の鑑賞の仕方についても学習します。 ・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を相互鑑賞で共有すると、また更に広がったり深まったりします。
--

2 学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
--

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a:美術への 関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動の様子 発表の様子	制作の様子 ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発表の内容 レポート

上に示す観点に基づいて、a:25%、b・c・d:75%の割合で評価し、5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	美術ついでいろいろ	【鑑賞】 【絵画・彫刻】 【デザイン】 ・オリエンテーション 教科書を鑑賞し、多様な表現形式について学び、「美術Ⅰ」の学習イメージを持つ。	○			○	a:美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 d:美術作品などのよさや美しさを感じ取り、美術の働きや文化についての理解を深めている。	ワークシート 活動の様子
	表し方いろいろ	【絵画・彫刻】 【デザイン】 ・造形練習 描画材の特徴、色彩の基礎、紙の種類、基本用具の扱い方。	○		○		a:描画材の種類や扱い方の違いによる表現効果に関心を持ち、積極的に試そうとしている。色彩について感心を持ち、今後の表現に生かそうとしている。 c:表現に適した鉛筆の削り方、持ち方を理解して、濃淡の差などを表している。アクリル絵の具、水彩絵の具の扱いや表現効果の違いを理解している。モダンテクニックの特徴を生かし、画面に効果的に表している。	ワークシート 活動の様子 練習作品
		・モダンテクニック絵本 様々な技法で表した紙を製本して一冊の絵本にする。		○	○	○	b:様々な技法による色や形、偶然の模様などがどんなイメージにつながるかを考えようとしている。 c:それぞれの技法の特徴、色、形に合わせてストーリーなどを考えたり表現を追加したりして製本している。 d:他の作者の表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取っている。	制作の様子 ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品
	葉のかたちから	【鑑賞】 【デザイン】 ・数種類の葉のスケッチ ・平面構成 アイデアスケッチ:葉の形をもとに画面を分割構成 配色の計画:1/2サイズの試作 パネル水張り:水張りの目的と方法を理解する 着色:モダンテクニックを取り入れ着色する。	○	○	○	○	a:身近なものの形をもとにし画面を構成することに興味を持ち、形や配色を考え表現しようとしている。 b:条件や美しさなどから、形や色彩などの働きを考えて構成を練っている。 c:使う形の要素を生かして面の大きさや線の重なりにより構成し、アクリル絵の具の特性を生かし、表現方法を工夫して条件や計画を基に表現している。 d:自作品の制作意図を伝えたり、他の作品の意図や表現の工夫、よさや美しさなどを感じ取り、作者にコメントを伝えている	制作の様子 ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品 鑑賞活動の様子 発表の様子 相互鑑賞ワークシート

	美術の流れ(前)	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物や作品、時代様式など1人1テーマについて調べる ・原稿にまとめ、資料として印刷・配布 ・発表 	○				○	<p>a: 西洋・東洋の美術の流れに関心を持ち、調べたことをわかりやすく伝えようとしている。</p> <p>d: 工夫して発表したり、理解しようと聞いたりして、多様な美術の分野があることに理解を深めている。</p>	<p>作成資料</p> <p>活動の様子</p> <p>発表</p> <p>ワークシート</p>
後期	私の○○風景	<p>【絵画・彫刻】</p> <p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木版画 一版一色刷り 手彩色 下絵（風景写真を自身で撮ったものから） 転写・彫り 刷り（3種の刷り紙） 手彩色（裏・表・両面など） 額装（木彫可・着色可） 相互鑑賞 	○	○	○	○	<p>a: 版による表現に関心を持ち、木版（黒刷り手彩色）で表現することに興味を持って取り組もうとしている。</p> <p>b: 条件から、画面構成を考え、制作の見通しをたてている。</p> <p>c: 黒の配分をいかした画面の構成、彫刻刀の使い分けや彫る方向による効果、刷りによるインクの濃淡、手彩色の配色、絵の具の濃淡など、計画を基に工夫して表現している。</p> <p>d: 自他の作品の良さ、美しさ、工夫などを伝えあい、作品について理解を深めている。</p>	<p>制作の様子</p> <p>ワークシート</p> <p>鑑賞活動の様子</p> <p>アイデアスケッチ</p> <p>下絵、制作途中の作品</p> <p>試し刷り作品、制作途中の作品</p> <p>作品</p> <p>相互鑑賞ワークシート</p>	
	美術のながれ(後)	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物や作品、時代様式など1人1テーマについて調べる ・原稿にまとめ、資料として印刷・配布 ・発表する 	○				○	<p>a: 西洋・東洋の美術の流れに関心を持ち、調べたことをわかりやすく伝えようとしている。</p> <p>d: 工夫して発表したり、理解しようと聞いたりして、多様な美術の分野があることに理解を深めている。</p>	<p>作成資料、</p> <p>活動の様子</p> <p>発表</p> <p>ワークシート</p>

※ 表中の観点について a:美術への関心・意欲・態度 b:発想や構想の能力
c:創造的な技能 d:鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成31年度 芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	書 I （光村書店）308						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて、芸術科書道では用具用材の違いによる表現の違い等を学びましょう。 ・楷書から行書、仮名に至るまで様々な書体を体験し、筆の弾力を使いこなし、自分らしい文字を書くことが出来るようになることをめざします。 ・半切条幅作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2 学習の到達目標

<p>書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。</p>
--

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:書への 関心・意欲・態度	b:書表現の 構想と工夫	c:創造的な書表現の 技能	d:鑑賞の能力
観 点 の 趣 旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評 価 方 法	観察	提出作品	提出作品	提出作品
<p>上に示す観点に基づいて、a:20%, b:50%, c:20%, d:10%の割合で評価し、5段階の評定にまとめます。</p> <p>学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>				

4 学習の活動

学期	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	楷書を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・書写から書道へ ・姿勢と執筆法について ・用具、用材説明 線の引き方から概念ください ・楷書(牛欄造像記を中心に) 一本一本の線の表情と空間の取り方から美の法則を学ぶ ・半切条幅作品に仕上げる 	○			○	a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 技能 d: 知識・理解	提出作品
	行書の特徴を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントによる考察 ・基本的特徴の6段階有ることを学ぶ創作 ・行書体の字調べをし、半切に仕上げる。 	○			○	a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 技能 d: 知識・理解	提出作品
後期	仮名の書に親しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントによる考察 日本文化と仮名について ・仮名の成立 ・基本線を学びつつ、ひら仮名、変体仮名、連綿の仕方を知る ・古筆を学ぶ 高野切れ、古今集等 	○			○	a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現 c: 技能 d: 知識・理解	提出作品

※ 表中の観点について a: 書への関心・意欲・態度
c: 創造的な書表現の技能

b: 思考・判断・表現
d: 知識・理解

平成31年度 家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2単位	年次	1年次
校内名称	家庭			ユニット数	1.5	必選別	必
使用教科書	「新図説家庭基礎」 (実教出版)						
副教材等	生活ハンドブック (第一学習社)						

2 学習の到達目標

人の一生と家族・家庭、福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。実習を通じて被服分野では基礎縫い、食物分野では食事を作る技術、保育分野では幼児への接し方が習得でき、それを活かして家庭や地域の生活課題を自ら解決する態度を育成する。技術面だけでなく、他者の意見を聞き、主体的な考えを持つ事で、家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する力を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身につけている。
評 価 方 法	学習状況の観察 プリントの記述 レポート 自己評価 相互評価 発表等	学習状況の観察 プリントの記述 レポート 発表 自己評価 相互評価等	学習状況の観察 テスト 実技テスト 作品 自己評価等	学習状況の観察 プリントの記述 レポート 発表 テスト等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、テスト(授業中)20~30%、実技テスト、作品、レポートなど70~80%程度です。				

4 学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間 調査まで	人と かかわって 生きる 自分らしい 生き方と 家族	○人生80年を見通す ・青年期の生き方について考える ・自己を知る ・大人とは? *グループワーク ・自立とは? *グループワーク	○	○	○		a:各ライフステージの特徴・課題について、関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:青年期の課題について理解し、自立や大人に必要な条件などを考え、他者と意見を共有し深く考察している。 c:グループで意見をまとめ発表する技術がある。	授業観察 プリント 自己評価 相互評価 発表 レポート
		○デートDV ○労働について考える *性別役割分業についてのグループワーク ○家族について ・結婚 ・家族と法律	○	○	○	○	a:自分に起こりえるライフイベントとして主体的に捉え学習する態度がある。 b:社会的な課題がなぜ起っているかを考え、解決を目指した考察を表現できている。 c:固定的な性別役割分業意識を見直し、男女共同参画社会の実現、ワークライフバランスについて検討する技術を身につけている。 d:デートDV、家事労働、職業労働の特徴と性別役割分業意識との関連などを理解し法律についても知識を身につけている。	

前 期 期 末 考 査 ま で	食 生 活 を つ く る	<p>★この単元は1年間に渡って学習する</p> <p>○私たちの食生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の食生活 ・和食について <p>○調理の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活の安全と衛生 ・調理の基礎 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">* 調理実習3回 (5月～2月)</div> <ul style="list-style-type: none"> * 調理実技テスト * 実験 <p>○栄養と栄養素</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">・こどもの栄養(後期)</div>	○	○	○	<p>a : 食事と栄養・食品、これからの食生活に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>b : 青年期の食事の重要性、食事摂取量について考えられている。</p> <p>c : 基本的な調理技術を学び、健康で安全かつ環境に配慮した日常食をつくる技術を身につけている。</p> <p>d : 生涯を通じて健康で安全な食生活を営むことができる知識を身につけている。5大栄養素の働き、多く含む食品について理解できている。</p>	授 業 観 察 プ リ ン ト 実 技 テ ス ト レ ポ ー ト
	衣 生 活 を つ く る	<p>○衣服の機能</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">・こどもの衣服(後期)</div> <p>○衣生活の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衣服の購入 ・衣服の洗濯 ・衣生活と資源・環境 <p>○被服実習</p> <ul style="list-style-type: none"> * 基礎縫いで作品制作 	○	○	○	<p>a : 衣服を着用する意味や快適な衣生活について自分の衣服について考える等主体的に取り組む姿勢がある。</p> <p>b : 環境にまで配慮し、衣服計画を考えることが出来る。</p> <p>c : 衣服の着装、管理などについての技術を身につけている。</p> <p>c : 基礎縫いが出来ている。</p> <p>d : 衣服の素材や衣服の管理な科学的に理解し、衣生活を主体的に営む知識が身につけている。</p>	
後 期 中 間 考 査 ま で		<p>○ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> * 家族に食事をつくる 	○	○	○	<p>a : ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について感心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>b : 生活上の課題を見出し、その解決を目指して科学的に探求し、表現している。</p> <p>c : 計画に沿ってホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を実践することができる。</p> <p>d : ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の実践に必要な知識を身に付けている。</p>	夏 休 み 中 の 課 題 と 発 表

平成31年度 英語科

教科	英語	科目	総合英語	単位数	前2 後3	年次	1年次
校内名称	英語R・英語G・英語表現			ユニット数	英語 R1.5 英語 G1.5 英語表現 1.0	必選別	必
使用教科書	英	R：①CROWN English Communication 1 New Edition(三省堂)					
副教材等	英	R：②Link to Crown (三省堂) ③コンパクト英語構文90 (数研出版) ④文構造を見抜いて長文を読む Jr. Effective (エスト出版)					
	英	G：⑤基礎からの新々総合英語(数研出版) ⑥基礎からの新々総合英語 Grand View English Grammar in 48 Stages (数研出版) ⑦基礎からの新々総合英語 Grand View English Grammar in 48 Stages Workbook (数研出版)					
		英語表現：⑧Basic Skills for the TOEFL iBT Listening 1(Compass Publishing) ⑨改訂版英語の発音ノート (数研出版) ⑩システム英単語 (駿台文庫)					

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>☆高校の英語について☆</p> <p>中学校での英語教材と比べると、単語量・英文量が増え、内容も難しくなるため、毎日の予習・復習が不可欠になる。中学校時代とは求められる<u>学習の仕方や量が全く異なる</u>ため、授業担当者の説明を良く聞いて指示に従うこと。</p> <p><英語R> 教材①の予習をして授業に臨むこと。 [予習]1) 事前に範囲に目を通し、全体の内容をつかむ。2) 分からない単語・熟語を調べてくることは当然であるが、本文の流れなどからも意味を類推するように努めること。教科書本文に関しては日本語の語順に直した全訳を作ってくる必要はない。できる限り英語のまま内容を理解することを最終目標とする。 [授業]予習で分からなかったことを確認する。本文の英語表現が自分のものとなるように、授業中の音読・ペアワーク・発言などの活動に積極的な態度で参加すること。 [復習]教材の内容を理解しながら、よどみなく読めるようになるまで音読の練習をする。</p> <p><英語G> 教材⑤⑥の予習をして授業に臨む。 [予習]授業範囲において、教材⑤の対応箇所を熟読してから、教材⑥の左ページの説明を読み、右ページの問題を授業用ノートに回答する。 [授業]ペアワーク等による問題確認を通して、予習した範囲に沿って授業を展開する。 [復習]教材⑦の演習問題等により、文法知識の定着をはかる。</p> <p><英語表現> リスニングパート：TOEFL形式の教材⑧を使用し、4技能型試験で問われるレベルのリスニング力を養う。スピーキングパート：教材⑨を使用し、英語の発音・アクセントに関するルールと正確な発音を学ぶ。また、授業はネイティブスピーカーによるスピーキングの実践的授業を行う。これらを組み合わせ、4技能型各種民間試験において高得点を獲得することができる思考力・英語運用能力を養う。</p> <p>☆大学受験との関係☆</p> <p>大学受験を考えると、英語の学習は1年生までで一通り終了し、2年生は定着を図り、3年生は実際の入試問題の演習となる。1年時の授業で基礎的な内容を終了し、その知識を用いて2年時からの読解等の問題演習に取り組み、3年時には難関国立大学等の問題演習に移行するため、高校英語に関しては<u>1年時において確実に定着させる必要がある</u>。</p> <p>また、2020年度より導入される「大学入学共通テスト」において、4技能型の民間資格・検定試験を活用することが決定している。大学受験においても「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能がバランスよく習得できていることが重要になってくる。</p> <p>本校ではそういった情勢にも対応すべく、英語R、英語G、英語表現のそれぞれにおいて、4技能型試験に十分対応することのできる英語運用能力を養っていく。英語は大学受験だけでなく、グローバル社会において活躍する大手前生にとって大切な知識・技能である。どのような場面にも対応できる英語力をつけるため、家庭学習も含め、1年生の授業は日々大切に、全ての活動に積極的に取り組んでほしい。</p>
--

2 学習の到達目標 (CAN-DO リストによる当該学年の4技能の到達目標)

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価	学習到達目標	科目・評価
<p>・論点の明らかな英文を読み、また、話された英文を聞いて、それぞれのポイントを捉えて、その概要を簡潔に話すことができる。</p> <p>・自分のこれまでの経験、将来の夢や希望などについて、前もって準備し、メモを見ないで理由と具体例を添えて短く説明することができる。</p>	<p>総英 ・グループ レゼンテー ション</p> <p>総英 ・グループ レゼンテー ション ・インタ ビューテスト</p>	<p>・複数の段落で、序論・本論・結論を意識して、時間をかけた修正を経て、自分の意見をわかりやすく書くことができる。</p> <p>・自分のよく知っているトピックに関して、参考文献やインターネットなどから情報を収集し、それをまとめた文章を書くことができる。</p>	<p>総英 ・エッセー ライティング ・定期考査</p>	<p>・自然な速さで話されるスピーチや会話(3～5分)を聞いて、要点をつかみながら内容を理解することができる。</p> <p>・自然、化学、芸術、文学等の多様なテーマの会話、スピーチ、講義等において、なじみのないことでも全体の概要を理解することができる。</p>	<p>総英 ・リスニング テスト ・定期考査</p>	<p>・よく知っている分野の説明書や記事、契約書などの要旨を理解することができる。</p> <p>・難しい部分は読み返す等しながら、ある程度まとまった文章や小説などの全体の要旨を理解することができる。</p>	<p>総英 ・暗唱テスト ・定期考査</p> <p>総英 ・定期考査</p>

3 学習評価(評価規準と評価方法) 英語R・英語G・英語表現共通

観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識理解
実施方法	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているかを的確に評価できる方法で実施。	CAN-DOリストによる「話すこと」と書くことの到達目標を的確に評価できる方法で実施。	CAN-DOリストによる「読むこと」と「聞くこと」の到達目標を的確に評価できる方法で実施。	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解しているかどうかを的確に評価できる方法で実施

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に分配し、評価します。

4-1 学習の活動（英語R）

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 1 (4時間)	ピクトグラムの果たしている機能を知ること、言語の働きについて考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		ピクトグラムを見かけた場所について、積極的に話すことができる。	「ことば」の役割について、積極的に話し合ったり、意見の交換をしている。	ペアワークによる言語活動ができたか。	ペアワークによる言語活動を観察する。	
		外国語表現の能力				
		基本的な文のパターン、動名詞、助動詞を用いた文を正しく書くことができる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。 ピクトグラムが将来どうなるかについて、適切に書く。	動名詞、助動詞を使って、適切に書くことができたか。	定期テスト	
		外国語の理解の能力				
		ピクトグラムの役割について、正しく読み取ることができる。	ピクトグラムと「ことば」の役割、可能性を、正しく読み取る。	穴埋め、部分訳で正しく文を完成できたか。	定期テスト	
言語や文化についての知識・理解						
「ことば」の役割を正しく理解する。	基本的な文のパターン、動名詞、助動詞を理解する。	言語、文化に関する英問、英答問題ができたか。	定期テスト			

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法
Lesson 2 (4時間)	宇宙飛行士・若田光一氏の話を通し、地球人としての生き方を考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		宇宙について知っていることを、間違えることを恐れずに積極的に話している。	宇宙について知っていることを、間違えることを恐れずに積極的に話す。	ペアワークによる言語活動ができたか。	ペアワークによる言語活動を観察する。
		外国語表現の能力			
		現在完了、不定詞、〈S+V+O (O=疑問詞節/if 節)〉を用いた文を正しく書くことができる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。 宇宙開発への賛否について、適切に書くことができる。	現在完了、不定詞を使って適切に書くことができたか。	定期テスト
		外国語の理解の能力			
		宇宙ステーションでの生活や実験について正しく読み取ることができる。	「危険を冒しても人類が宇宙へいくことの意義」を正しく読み取る。	内容把握の問題ができたか。	定期テスト
言語や文化についての知識・理解					
現在完了、不定詞、〈S+V+O (O=疑問詞節/if 節)〉を正しく理解する。	宇宙において国境を越えて協力し合うことの大切さを理解する。	言語、文化に関する英問、英答ができたか。	定期テスト		

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 3 (5 時間)	内野加奈子さんの経験を通して、自然との関わり方、共存、伝統文化の継承について考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		自分の経験した船旅やハワイへの渡航経験の有無について、積極的に話し合うことができたか。	自分の経験した船旅やハワイへの渡航経験の有無について、積極的に話し合う。	ペアワークによる言語活動ができたか。	ペアワークによる言語活動を観察する。	
		外国語表現の能力				
		関係代名詞、分詞の形容詞的用法、〈S+is+C (C=that 節)〉の文を正しく書くことができる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	関係代名詞、分詞などを用いて適切に書くことができたか。	定期テスト	
		外国語の理解の能力				
		ホクレア号の航海の過程や伝統航海術の手法を、正しく読み取ることができる。	内野加奈子がホクレア号の航海から学んだことを、正しく読み取ることができる。	内容把握の問題ができたか。	定期テスト	
言語や文化についての知識・理解						
関係代名詞、分詞の形容詞的用法、〈S+is+C (C=that 節)〉の文法を理解する。	日本の伝統文化と同じく、他国の伝統文化も等しく大切であることを知る	言語、文化に関する英問、英答ができたか。	定期テスト			

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 4 (5 時間)	ピアニスト 辻井伸行氏 の業績、ボ ランティア 活動につい て。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		読んだ内容について意見 や感想を述べることがで きる。	読んだ内容につい て意見や感想を述 べる。	ペアワークによる 言語活動ができた か。	ペアワークによる 言語活動を観察す る。	
		外国語表現の能力				
		関係代名詞 what、過去完 了、〈S+V+O+C (C=原 形不定詞、V=知覚動詞・ 使役動詞) 〉の文を正しく 書く。	伝えたい内容に応 じて語句や表現を 選択し、適切に書 く。	関係代名詞・過去完 了などを使って、適 切に書くことがで きたか。	定期テスト	
		外国語の理解の能力				
		辻井伸行が生まれてから コンクールで優勝し、その 後 3.11 に際しての支援活 動をするまでの過程を、正 しく読み取ることができ る。	辻井伸行の父親に 対する心情を適切 に読み取ること。	内容把握の問題が できたか。	定期テスト	
		言語や文化についての知識・理解				
関係代名詞 what、過去完 了、〈S+V+O+C (C=原 形不定詞、V=知覚動詞・ 使役動詞) 〉を理解する。	ハンズを克服し、世 界的なピアノコン クールで優勝を果 たした辻井伸行に ついて知る。	言語、文化に関する 英問英答ができた か。	定期テスト			

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法
Lesson 5 (5 時間)	フードバンク活動を知り、貧困やボランティア活動について考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		ボランティアについての自分の考えを、間違えることを恐れずに話すこと。	ボランティアについての自分の考えを、間違えることを恐れずに話す。	ペアワークによる言語活動ができたか。	ペアワークによる言語活動を観察する。
		外国語表現の能力			
		関係副詞、〈S+V+O+C (C=分詞)〉、〈S+V+C (C=分詞)〉の文を正しく書くことができる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書く。	関係副詞等を用いて、適切な英文を書くことができたか。	定期テスト
		外国語の理解の能力			
		Food Bank の活動の仕組みについて、正しく読み取ることができる。	2HJ が設立されるに至った背景について、正しく読み取ることができる。	内容に関する英問英答ができたか。	定期テスト
言語や文化についての知識・理解					
関係副詞、〈S+V+O+C (C=分詞)〉、〈S+V+C (C=分詞)〉を理解する。	深刻になりつつある貧困の問題、格差の問題について理解する。	言語、文化に関する英問、英答ができたか。	定期テスト		

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 6 (5時間)	動物学者・ 環境保護活 動家のジェ ーン・グド ール博士の インタビュー を通し て、動植物 との共生を 考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		話の要点に注意して聞き、積極的に聞こうとしている。	理解できないところや聞き取れないところを質問したり、聞き返したりして理解する。	ペアワークによる言語活動ができたか。	ペアワークによる言語活動を観察する。	
		外国語表現の能力				
		分詞構文、形式主語、同格などを用いた文を正しく書くことができる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	分詞構文、形式主語、同格などを用いた文を正しく書くことができるか。	定期テスト	
		外国語の理解の能力				
		チンパンジーと人間の、似ている点／異なる点を正しく読み取ることができる。	グドール博士の考える環境保護活動について、ポイントを押さえながら読むことができる。	内容把握に関する問題ができたか。	定期テスト	
言語や文化についての知識・理解						
分詞構文、形式主語、同格などの文法を理解する。	チンパンジーと人間の違い、同じところなどを知る。	言語、文化に関する英問、英答問題ができたか。	定期テスト			

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 7 (5 時間)	建築家・坂 茂氏の活動 を通して、 社会貢献の 意義やあり 方について 考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		さまざまな建築資材につ いての質問に対して、間違 えることを恐れずに話す。	さまざまな建築資 材についての質問 に対して、答える。	ペアワークによる 言語活動ができた か。	ペアワークによる 言語活動を観察す る。	
		外国語表現の能力				
		seem to/it seems that、 受動態の完了形、形式目的 語 it の文を正しく書くこ とができる。	伝えたい内容に応 じて語句や表現を 選択し、適切に書く ことができる。	seem to/it seems that、受動態の完了 形、形式目的語 it の文を正しく書く ことができたか。	定期テスト	
		外国語の理解の能力				
		坂茂が被災地支援をする 理由をを正しく読み取る ことができる。	坂茂にとって「成長 する」とはどのよう なことを意味する か、正しく読み取る ことができる。	内容把握の問題が できたか。	定期テスト	
		言語や文化についての知識・理解				
seem to/it seems that、 受動態の完了形、形式目的 語 it を理解する。	坂茂がこれまでお こなってきた被災 地支援の歴史を知 る。	言語、文化に関する 英問、英答ができた か。	定期テスト			

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法
Lesson 8 (5時間)	20世紀を象徴する写真を見て、歴史からなにを学び、その教訓をどう生かせるかを考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		内容の展開を理解しながら読み、読んだ内容について意見や感想を述べようとしている。	平和についての自分の考えを、よりうまく伝えるように工夫している。	ペアワークによる言語活動ができたか。	ペアワークによる言語活動を観察する。
		外国語表現の能力			
		仮定法過去、〈S+V+01+02 (02=疑問詞節)〉、付帯状況の with の文を正しく書くことができる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書く。	仮定法過去、〈S+V+01+02 (02=疑問詞節)〉、付帯状況の with の文を正しく書くことができたか。	定期テスト
		外国語の理解の能力			
		それぞれの写真が撮影された状況を正しく読み取ることができる。	それぞれの写真についての文章を、適切な速さで読み、概要を把握する。	内容把握に関する問題ができたか。	定期テスト
言語や文化についての知識・理解					
仮定法過去、〈S+V+01+02 (02=疑問詞節)〉、付帯状況の with を理解する。	戦争の悲惨さや平和の重要性を理解し、また写真の持つ力を知る。	言語、文化に関する英問、英答ができたか。	定期テスト		

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法
Lesson 9 (5 時間)	アンドロイド研究の第一人者・石黒浩氏の研究を通して、その意義と、人間とロボットの関係について考える。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		ロボット (がいる社会) についての自分の考えを、積極的に話している。	ロボット (がいる社会) についての自分の考えを、積極的に話す。	ペアワークによる言語活動ができたか。	ペアワークによる言語活動を観察する。
		外国語表現の能力			
		部分否定、used to/would、〈助動詞+be+過去分詞 (助動詞+受け身)〉の文を正しく書くことができる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	部分否定、used to/would、〈助動詞+be+過去分詞 (助動詞+受け身)〉の文を正しく書くことができたか。	定期テスト
		外国語の理解の能力			
		筆者の論点を正しく読み取ることができる。	石黒浩がアンドロイド研究をする理由を正しく読み取ることができる。	内容把握の問題ができたか。	定期テスト
言語や文化についての知識・理解					
部分否定、used to/would、〈助動詞+be+過去分詞 (助動詞+受け身)〉を理解する。	将来訪れると予想できるアンドロイドとのつきあい方について考える。	言語、文化に関する英問、英答ができたか。	定期テスト		

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 10 (6時間)	漫画ピーナッツを通して、本当の強さとはなにかを考えるとともに、人を思いやることの大切さを知る。	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		読んだ内容について意見や感想を述べようとしている。	読んだ内容について意見や感想を述べる。	ペアワークによる言語活動ができたか。	ペアワークによる言語活動を観察する。	
		外国語表現の能力				
		仮定法過去完了、〈no matter+疑問詞〉、〈be to不定詞〉の文を正しく書くことができる。	伝えたい内容に応じて語句や表現を選択し、適切に書くことができる。	仮定法過去完了、〈no matter+疑問詞〉、〈be to不定詞〉の文を正しく書くことができたか。	定期テスト	
		外国語の理解の能力				
		ピーナッツの世界的人気の理由を、正しく読み取ることができる。	シュルツが考える「人生の成功」を適切に読みとることができる。	内容把握の問題ができたか。	定期テスト	
		言語や文化についての知識・理解				
仮定法過去完了、〈no matter+疑問詞〉、〈be to不定詞〉を理解する。	ピーナッツを通して「人生における成功」とはなにかを考える。	言語、文化に関する英問、英答ができたか。	定期テスト			

4-2 学習の活動（英語G）

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法
Lesson 1～4 (1時間)	文の種類・ 構造	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		文の種類・構造に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話をを行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	文の種類・構造を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		文の種類・構造について理解し、問題演習において使用する。	文の種類・構造に関する問題演習を行う。	文の種類・構造について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。
		「外国語理解の能力」			
		文の種類・構造について、意味や用途を判断する。	文の種類・構造に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	文の種類・構造について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。
「言語や文化についての知識・理解」					
文の種類・構造について正しく理解する。	文の種類・構造の用法を確認する。	文の種類・構造について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
Lesson 5～9 (1時間)	基本時制・ 進行形・完 了形	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		基本時制・進行形・完了形に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話をを行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	基本時制・進行形・完了形を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		基本時制・進行形・完了形について理解し、問題演習において使用する。	基本時制・進行形・完了形に関する問題演習を行う。	基本時制・進行形・完了形について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。
		「外国語理解の能力」			
		基本時制・進行形・完了形について、意味や用途を判断する。	基本時制・進行形・完了形に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	基本時制・進行形・完了形について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。
「言語や文化についての知識・理解」					
基本時制・進行形・完了形について正しく理解する。	基本時制・進行形・完了形の用法を確認する。	基本時制・進行形・完了形について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		

単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 10～13 (2時間)	助動詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		助動詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	助動詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		助動詞について理解し、問題演習において使用する。	助動詞に関する問題演習を行う。	助動詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		助動詞について、意味や用途を判断する。	助動詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	助動詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	助動詞について正しく理解する。	助動詞の用法を確認する。	助動詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
Lesson 14, 15 (1時間)	動詞の態	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		動詞の態に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	動詞の態を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		動詞の態について理解し、問題演習において使用する。	動詞の態に関する問題演習を行う。	動詞の態について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		動詞の態について、意味や用途を判断する。	動詞の態に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	動詞の態について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	動詞の態について正しく理解する。	動詞の態の用法を確認する。	動詞の態について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
Lesson 16～18 (2時間)	不定詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		不定詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	不定詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		不定詞について理解し、問題演習において使用する。	不定詞に関する問題演習を行う。	不定詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		不定詞について、意味や用途を判断する。	不定詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	不定詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	不定詞について正しく理解する。	不定詞の用法を確認する。	不定詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		

単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 19,20 (2時間)	動名詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		動名詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	動名詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		動名詞について理解し、問題演習において使用する。	動名詞に関する問題演習を行う。	動名詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		動名詞について、意味や用途を判断する。	動名詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	動名詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
動名詞について正しく理解する。	動名詞の用法を確認する。	動名詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身につけているかを判断する。			
Lesson 21～23 (3時間)	分詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		分詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	分詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		分詞について理解し、問題演習において使用する。	分詞に関する問題演習を行う。	分詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		分詞について、意味や用途を判断する。	分詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	分詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
分詞について正しく理解する。	分詞の用法を確認する。	分詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身につけているかを判断する。			
Lesson 24～26 (3時間)	比較	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		比較に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	比較を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		比較について理解し、問題演習において使用する。	比較に関する問題演習を行う。	比較について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		比較について、意味や用途を判断する。	比較に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	比較について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
比較について正しく理解する。	比較の用法を確認する。	比較について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身につけているかを判断する。			

単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 27～30 (4時間)	関係詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		関係詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	関係詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		関係詞について理解し、問題演習において使用する。	関係詞に関する問題演習を行う。	関係詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		関係詞について、意味や用途を判断する。	関係詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	関係詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	関係詞について正しく理解する。	関係詞の用法を確認する。	関係詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
Lesson 31, 32 (2時間)	仮定法	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		仮定法に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	仮定法を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		仮定法について理解し、問題演習において使用する。	仮定法に関する問題演習を行う。	仮定法について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		仮定法について、意味や用途を判断する。	仮定法に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	仮定法について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	仮定法について正しく理解する。	仮定法の用法を確認する。	仮定法について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
Lesson 33, 34 (2時間)	時制の一致と語法	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		時制の一致と語法に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	時制の一致と語法を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		時制の一致と語法について理解し、問題演習において使用する。	時制の一致と語法に関する問題演習を行う。	時制の一致と語法について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		時制の一致と語法について、意味や用途を判断する。	時制の一致と語法に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	時制の一致と語法について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	時制の一致と語法について正しく理解する。	時制の一致と語法の用法を確認する。	時制の一致と語法について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		

単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法
Lesson 35, 36 (2時間)	否定	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」 否定に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	否定を用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。
		「外国語表現の能力」 否定について理解し、問題演習において使用する。	否定に関する問題演習を行う。	否定について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。
		「外国語理解の能力」 否定について、意味や用途を判断する。	否定に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	否定について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。
		「言語や文化についての知識・理解」 否定について正しく理解する。	否定の用法を確認する。	否定について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身につけているかを判断する。
		「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」 強調・倒置省略・挿入・同格に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	強調・倒置省略・挿入・同格を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。
Lesson 37 (1時間)	強調・倒置省略・挿入・同格	「外国語表現の能力」 強調・倒置省略・挿入・同格について理解し、問題演習において使用する。	強調・倒置省略・挿入・同格に関する問題演習を行う。	強調・倒置省略・挿入・同格について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。
		「外国語理解の能力」 強調・倒置省略・挿入・同格について、意味や用途を判断する。	強調・倒置省略・挿入・同格に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	強調・倒置省略・挿入・同格について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。
		「言語や文化についての知識・理解」 強調・倒置省略・挿入・同格について正しく理解する。	強調・倒置省略・挿入・同格の用法を確認する。	強調・倒置省略・挿入・同格について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身につけているかを判断する。
		「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」 無生物主語名詞構文に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	無生物主語名詞構文を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。
		「外国語表現の能力」 無生物主語名詞構文について理解し、問題演習において使用する。	無生物主語名詞構文に関する問題演習を行う。	無生物主語名詞構文について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。
Lesson 38 (1時間)	無生物主語名詞構文	「外国語理解の能力」 無生物主語名詞構文について、意味や用途を判断する。	無生物主語名詞構文に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	無生物主語名詞構文について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。
		「言語や文化についての知識・理解」 無生物主語名詞構文について正しく理解する。	無生物主語名詞構文の用法を確認する。	無生物主語名詞構文について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身につけているかを判断する。

単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 39, 40 (2時間)	接続詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		接続詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	接続詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		接続詞について理解し、問題演習において使用する。	接続詞に関する問題演習を行う。	接続詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		接続詞について、意味や用途を判断する。	接続詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	接続詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	接続詞について正しく理解する。	接続詞の用法を確認する。	接続詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
Lesson 41 (1時間)	名詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		名詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	名詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		名詞について理解し、問題演習において使用する。	名詞に関する問題演習を行う。	名詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		名詞について、意味や用途を判断する。	名詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	名詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	名詞について正しく理解する。	名詞の用法を確認する。	名詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
Lesson 42 (1時間)	冠詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		冠詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	冠詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		冠詞について理解し、問題演習において使用する。	冠詞に関する問題演習を行う。	冠詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		冠詞について、意味や用途を判断する。	冠詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	冠詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	冠詞について正しく理解する。	冠詞の用法を確認する。	冠詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		

単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 43, 44 (2時間)	代名詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		代名詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	代名詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		代名詞について理解し、問題演習において使用する。	代名詞に関する問題演習を行う。	代名詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		代名詞について、意味や用途を判断する。	代名詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	代名詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	代名詞について正しく理解する。	代名詞の用法を確認する。	代名詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
Lesson 45 (1時間)	形容詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		形容詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	形容詞を用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		形容詞について理解し、問題演習において使用する。	形容詞に関する問題演習を行う。	形容詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		形容詞について、意味や用途を判断する。	形容詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	形容詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	形容詞について正しく理解する。	形容詞の用法を確認する。	形容詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
Lesson 46 (1時間)	副詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		副詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	副詞を用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		副詞について理解し、問題演習において使用する。	副詞に関する問題演習を行う。	副詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		副詞について、意味や用途を判断する。	副詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	副詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	副詞について正しく理解する。	副詞の用法を確認する。	副詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		

単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Lesson 47,48 (2時間)	前置詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		前置詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	前置詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		前置詞について理解し、問題演習において使用する。	前置詞に関する問題演習を行う。	前置詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		前置詞について、意味や用途を判断する。	前置詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	前置詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	前置詞について正しく理解する。	前置詞の用法を確認する。	前置詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
OL1 (1時間)	接続詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		接続詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	接続詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		接続詞について理解し、問題演習において使用する。	接続詞に関する問題演習を行う。	接続詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		接続詞について、意味や用途を判断する。	接続詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	接続詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	接続詞について正しく理解する。	接続詞の用法を確認する。	接続詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
OL2 (1時間)	名詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		名詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	名詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		名詞について理解し、問題演習において使用する。	名詞に関する問題演習を行う。	名詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		名詞について、意味や用途を判断する。	名詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	名詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	名詞について正しく理解する。	名詞の用法を確認する。	名詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		

単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
OL3 (1時間)	冠詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		冠詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	冠詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		冠詞について理解し、問題演習において使用する。	冠詞に関する問題演習を行う。	冠詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		冠詞について、意味や用途を判断する。	冠詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	冠詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	冠詞について正しく理解する。	冠詞の用法を確認する。	冠詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
OL4 (1時間)	代名詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		代名詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	代名詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		代名詞について理解し、問題演習において使用する。	代名詞に関する問題演習を行う。	代名詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		代名詞について、意味や用途を判断する。	代名詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	代名詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	代名詞について正しく理解する。	代名詞の用法を確認する。	代名詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		
OL5 (1時間)	疑問詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		疑問詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	疑問詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。	
		「外国語表現の能力」				
		疑問詞について理解し、問題演習において使用する。	疑問詞に関する問題演習を行う。	疑問詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		疑問詞について、意味や用途を判断する。	疑問詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	疑問詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。	
「言語や文化についての知識・理解」						
	疑問詞について正しく理解する。	疑問詞の用法を確認する。	疑問詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身についているかを判断する。		

単元(配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法
OL6 (1時間)	群前置詞	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」			
		群前置詞に焦点を当てた表現を用いてペアまたはグループで会話を行う。	ペアワーク及びグループワークで予習時の疑問点を共有して解決し、問題文を使用した応答を行う。	群前置詞を正しく判別し、それを用いて適切な表現で応答ができる。	ペアでの言語活動を観察する。ワークシートを提出させ、その内容を取り組み状況として活用する。
		「外国語表現の能力」			
		群前置詞について理解し、問題演習において使用する。	群前置詞に関する問題演習を行う。	群前置詞について正しく理解し、適切に使用することができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。
		「外国語理解の能力」			
群前置詞について、意味や用途を判断する。	群前置詞に焦点をあてた英文による導入を理解し、演習問題の要点を理解する。	群前置詞について意味や用途を正しく判断し、明確に他の表現との区別ができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、内容理解ができていないかを判断する。		
「言語や文化についての知識・理解」					
群前置詞について正しく理解する。	群前置詞の用法を確認する。	群前置詞について正しく理解している。	言語の使用場面と働きを意識した定期考査の筆記テストにおいて、知識が身につけているかを判断する。		

4-3 学習の活動（英語表現）

単元（配当時間）	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Basic Skills for the TOEFL iBT Listening 1 Unit 1~3 (6時間)	History, Art, Zoology	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		ペアワークにおいて、互いに協力しながら会話を続ける。	ペアワーク及びグループワークで時制および場所に焦点を当てた会話練習を行う。	ペアワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	ペアでの言語活動を観察する。	
		「外国語表現の能力」				
		一週間のスケジュールや場所を説明する。	ペアワーク及びグループワークで時制および場所に焦点を当てた会話練習を行う。	一週間のスケジュールや場所を適切な時制や前置詞を用いて説明する。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		歴史・芸術・動物学についてまとまった量の会話や講義を聴き、要旨を把握する。	歴史・芸術・動物学についてまとまった文を聴く。	歴史・芸術・動物学についてまとまった文について、内容把握問題に解答することができる。	定期考査のリスニングテストにおいて、内容理解を問う出題により用紙の把握ができていないかを判断する。	
		「言語や文化についての知識・理解」				
母音の発音記号と音声結びつける。	母音の発音記号について、発音練習を行う。	母音について音声を正しく理解し発音しているか。	定期考査の発音問題により音声の理解を評価する。			

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Basic Skills for the TOEFL iBT Listening 1 Unit 4~6 (6時間)	Physics, Business, Astronomy	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		ペアワークにおいて、互いに協力しながら会話を続ける。	ペアワーク及びグループワークで時制および場所に焦点を当てた会話練習を行う。	ペアワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	ペアでの言語活動を観察する。	
		「外国語表現の能力」				
		困難な状況を説明し、それに対する適切なアドバイスができる。	ペアワーク及びグループワークで助動詞・受動態に焦点当てた会話練習を行う。	状況を説明し、適切なアドバイスを助動詞を用いて行うことができる。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		物理学・経済学・天文学についてまとまった量の会話や講義を聴き、要旨を把握する。	物理学・経済学・天文学についてのまとまった文を聴く。	物理学・経済学・天文学についてのまとまった文について、内容把握問題に解答することができる。	定期考査のリスニングテストにおいて、内容理解を問う出題により用紙の把握ができていないかを判断する。	
		「言語や文化についての知識・理解」				
子音の発音記号と音声結びつける。	子音の発音記号について、発音練習を行う。	子音について音声を正しく理解し発音しているか。	定期考査の発音問題により音声の理解を評価する。			

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Basic Skills for the TOEFL iBT Listening 1 Unit 7~9 (6時間)	Literature, Environment, Health	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				
		ペアワークにおいて、互いに協力しながら会話を続ける。	ペアワーク及びグループワークで時制および場所に焦点を当てた会話練習を行う。	ペアワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。	ペアでの言語活動を観察する。	
		「外国語表現の能力」				
		物事の描写を比較表現を用いて行うことができるようになる。	同一の性質を持つものについて、比較表現や分詞を用いて説明する。	比較表現や準動詞を用いて事物の描写をより詳細に行うことができるか。	定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。	
		「外国語理解の能力」				
		文学・環境問題・健康についてのアカデミックな文を聴き、要旨を把握する。	文学・環境問題・健康についてのまとまった文を聴く。	文学・環境問題・健康についての講義について、内容理解ができているか。	定期考査のリスニングテストにおいて、内容理解を問う出題により用紙の把握ができているかを判断する。	
		「言語や文化についての知識・理解」				
リエゾンなど外国語特有の発音要素を理解する。	音のつながりに注目し、ひとつなぎに聞こえる表現を正しく分割して把握する。	ディクテーション活動をワークシートで行う。	授業内で使用するワークシートおよび、定期考査のリスニングテストにおいてのディクテーション問題の成果により評価を行う。			

単元 (配当時間)	題材内容	単元の目標	主な学習内容	単元の評価基準	評価方法	
Basic Skills for the TOEFL iBT Listening 1 Unit 10~12 (6時間)	Technology, Geography, Music	「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」				ペアでの言語活動を観察する。
		ペアワークにおいて、互いに協力しながら会話を続ける。	ペアワーク及びグループワークで時制および場所に焦点を当てた会話練習を行う。	ペアワークにおいて、互いに協力しながら会話を続けている。		
		「外国語表現の能力」				定期考査の筆記テストにおいて、文法理解を問う出題により、適切な表現が書けているかを判断する。
		物事の描写や感情表現を関係詞・仮定法を用いて行うことができるようになる。	関係詞を用いて物物の詳細な描写を行う。仮定法を用いて心情等を詳しく描写する。	物事の描写や感情表現を関係詞・仮定法を用いて行うことができるか。		
		「外国語理解の能力」				定期考査のリスニングテストにおいて、内容理解を問う出題により用紙の把握ができていないかを判断する。
		科学技術・地理・芸術についてのアカデミックな文を聴き、要旨を把握する。	科学技術・地理・芸術についてのまとまった文を聴く。	科学技術・地理・芸術についての講義を聴き、内容把握問題に正しく解答することができるか。		
「言語や文化についての知識・理解」				授業内で使用するワークシートおよび、定期考査のリスニングテストにおいてのディクテーション問題の成果により評価を行う。		
リエゾンなど外国語特有の発音要素を理解する。	音のつながりに注目し、ひとつなぎに聞こえる表現を正しく分割して把握する。	ディクテーション活動をワークシートで行う。				

平成31年度 数学科

教科	SS理数	科目	SS数学I		単位数	前期3, 後期3	年次	1年次
校内名称	数学I 数学A		ユニット数	前期2.5, 後期2.5 前期2.0, 後期2.0		必選別	必修	
使用教科書	詳説数学I－改訂版－(啓林館), 詳説数学A－改訂版－(啓林館), 詳説数学II－改訂版－(啓林館), 詳説数学B－改訂版－(啓林館)							
副教材等	改訂版サクシード数学I+A(数研出版), 改訂版チャート式基礎からの数学I+A(数研出版), 改訂版サクシード数学II+B(数研出版), 改訂版チャート式基礎からの数学II+B(数研出版)							

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

<p>(1) 高校の数学について</p> <p>① 授業の進度が速い。 中学校の時には学校の授業だけで完璧に理解できていた人でも、高校では理解が浅い場合が多く、日々の家庭での学習習慣が重要性を増す。進度が速いのは、教科書の内容をできるだけ早く終わらせ、3年生の最初から大学入試に向けた問題演習に取り組むためである。</p> <p>② 結論に至る思考の過程を重視する。 「求め方も書きなさい」と特に指示がなくても思考の過程をしっかりと表現することが大切である。</p> <p>(2) 家庭学習</p> <p>① 予習をする。 予習は授業を効率よく受けるための準備で、進度の速い授業(1回の授業で教科書を少なくとも4ページ程度進む)についていくためには必要不可欠である。次の授業で扱うであろう教科書の例題・問いをやってみる。ただし、この段階では内容を完璧に理解する必要はない。わからない箇所をはっきりさせて、授業中にしっかりと聞いておくべきところを明確にすることが重要である。</p> <p>② 復習をする。 復習をしないと理解が定着しない。授業中に完璧に理解できたとしても、それだけでは「そのときだけの理解」に終わり、定着せず、定期考査等に対応できない。必ず授業のあったその日のうちに理解しにくかった部分を中心に、教科書の問い、問題集の問題で反復学習をする。問題集の問題はできるだけその週のうちにやっておく。苦手な分野や問題には問題集にチェックを入れておき、定期的に繰り返し復習に取り組む。いかに早いうちに復習できるかが定期考査等への対応力だけではなく、本当の意味での数学の学力の獲得への鍵となる。「予習→授業→復習」の学習スタイルの確立が大切ではあるが、このうち、特に復習に重点を置いて学習を進め、多くの時間をかけてほしい。</p> <p>(3) 授業の受け方</p> <p>① ノートを要領よくとる。 板書に必死になり、先生の話が耳に入っていないのでは駄目である。本当に大切なのは、話をしっかりと聞き、考えながら内容を理解することである。重要だと思ったことは、黒板に書かれていなくてもメモをして、家に帰ってから整理をする。これが充実した復習につながる。最初は苦勞するかもしれないが、十分な予習ができていれば難しいことではない。</p> <p>② 疑問点を放置しない。 わからない箇所を放置すると、次の項目も、その次の項目もわからなくなる。負の連鎖には絶対に陥ってはならない。とにかく、友人や先生に早期に相談して解決する。また、予習の段階で理解しにくかった部分は、必ず授業中に質問する。そのような部分はみんなが共通して理解しにくい部分であることが多く、大切な部分であることが多い。</p>

2 学習の到達目標

<p>数学について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目標とする。また、事象を数学的に考察し表現する能力を養い、それらを活用する態度を身につけることを目標とする。</p>

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 数学的な見方や考え方	c: 数学的な技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	数学の考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数学において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	提出課題 観察等	考査 提出課題 観察等	考査 提出課題 観察等	考査 提出課題 観察等
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点90%程度、平常点10%程度です。</p>				

4 学習の活動 校内名称「数学Ⅰ」

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間 調査まで	数と式	整式とその加法・減法			○	○	a:様々な数と式の計算に関心を持つとともにその効果を認識し、それらを問題の解決に活用しようとしている。 b:様々な数と式の計算や方程式・不等式を多面的に捉えて考えることができる。 c:計算を工夫することができる。 d:式の基本的な計算や方程式、不等式の解法を理解している。	調査 提出課題 観察等
		整式の乗法・除法、約数と倍数	○		○	○		
3次の乗法公式と因数分解	○	○	○	○				
分数式の計算			○	○				
実数	○	○						
絶対値、平方根	○		○					
不等式の性質とその解		○		○				
絶対値を含む方程式・不等式		○		○				
前期中間 調査まで	2次関数	関数	○			○	a:関数に関心を持つとともにその効果を認識し、それらを問題の解決に活用しようとしている。 b:関数とそのグラフを多面的に捉えて考えることができる。 c:条件に合うようなグラフを正しくかくことができる。 d:関数の性質や2次不等式の解法を理解している。	調査 提出課題 観察等
		2次関数のグラフ	○		○			
2次関数の決定		○		○				
前期末 調査まで	2次関数	2次関数の最大・最小	○	○				
		最大・最小の応用		○	○			
		2次関数のグラフとx軸との共有点		○	○			
		2次不等式とその解		○	○	○		
前期末 調査まで	式と証明	2次不等式の応用		○	○	○		
		恒等式			○	○		
等式の証明			○	○				
不等式の証明			○	○				
後期中間 調査まで	高次方程式	複素数	○		○			
		2次方程式			○			
		2次方程式の解と係数の関係		○		○		
		剰余の定理と因数定理	○	○				
後期中間 調査まで	図形と計量	高次方程式	○		○	○	a:三角比の考え方や計算に関心を持つとともにその効果を認識し、それらを問題の解決に活用しようとしている。 b:三角比の考え方を多面的に捉えることができる。 c:三角比の計算が正しくでき、図形的にも正しく表現することができる。 d:三角比の基本的な考え方や法則を理解している。	調査 提出課題 観察等
		正接・正弦・余弦	○			○		
$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の三角比	○			○				
三角比の相互関係		○	○					
後期末 調査まで	図形と計量	正弦定理			○	○		
		余弦定理			○	○		
		図形の面積		○	○			
		空間図形の計量		○	○	○		
後期末 調査まで	三角関数	一般角と弧度法	○			○	a:弧度法や三角関数に関心を持つことができる。 b:三角関数の考え方を多面的に捉えることができる。 c:三角関数の計算が正しくでき、正しくグラフをかくことができる。 d:弧度法や三角関数の考え方や法則を理解している。	調査 提出課題 観察等
		一般角の三角関数	○			○		
		三角関数の相互関係		○	○			
		三角関数のグラフ	○		○	○		
		三角関数を含む方程式・不等式		○	○	○		

※ 表中の観点について a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

校内名称「数学A」

期間	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間 調査まで	集合と命題	集合 命題と集合 逆・裏・対偶	○			○	a:集合の考え方に興味を持つことができる。 b:集合の考え方を発展的に捉え活用することができる。 c:証明を正しく表現することができる。 d:集合や命題の考え方を理解している。	調査 提出課題 観察等
	場合の数と確率	集合と要素の個数 場合の数 和の法則・積の法則 順列・いろいろな順列	○			○	a:場合の数と確率に関心を持つとともにその効果を認識し、それらを問題の解決に活用しようとしている。 b:場合の数と確率を多面的に捉えることができ、数え上げる時に数学的な考え方ができる。 c:場合の数と確率を正しく捉え、計算することができる。 d:場合の数と確率の基本的な性質や法則を理解している。	調査 提出課題 観察等
		組合せ 同じものを含む順列 二項定理	○			○		
前期末 調査まで	場合の数と確率	事象と確率 確率の基本性質 独立な試行 反復試行 やや複雑な確率の計算 条件付き確率 条件付き確率の利用	○			○	a:データの分析の方法に関心を持つことができる。 b:データを多面的に捉え活用することができる。 c:データの特徴を正しく表現することができる。 d:データの分析の考え方や方法を理解している。	調査 提出課題 観察等
	データの分析	データの整理 データにおける代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差 データの相関・散布図	○			○		
後期中間 調査まで	図形と方程式	直線・平面上の点の座標 直線の方程式 2直線の平行・垂直 円の方程式 円と直線 2つの円の位置関係 軌跡 不等式の表す領域	○			○	a:図形と方程式の関係に関心を持ち、それらを問題の解決に活用しようとしている。 b:方程式を図形的に捉え活用することができる。 c:図形と方程式、不等式をお互いに正しく表現することができる。 d:図形と方程式の性質を理解している。	調査 提出課題 観察等
後期末 調査まで	平面上のベクトル・空間座標	ベクトル ベクトルの和・差・実数倍 ベクトルの成分 ベクトルの内積 位置ベクトル 位置ベクトルと図形 ベクトル方程式 空間における直線・平面の位置関係 空間の点の座標	○			○	a:ベクトルや空間座標に関心を持ち、その有用性を認識し、活用しようとしている。 b:さまざまな図形の性質を、ベクトルを通して考察し、応用できる。また、座標を用いて空間における位置を表現できる。 c:ベクトルの内積を計算できる。ベクトル方程式を解くことができる。 d:ベクトルの意味を理解し、ベクトルが同じ向きと大きさを持った有向線分の1つで代表されることを知っている。	調査 提出課題 観察等

※ 表中の観点について a：関心・意欲・態度 b：思考・判断・表現 c：技能 d：知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

平成31年度 理科

教科	理科	科目	SS化学	単位数	1単位	年次	1年次
校内名称	化学			ユニット数	1	必選別	必
使用教科書	化学基礎 新訂版 (啓林館)						
副教材等	資料集：サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) 問題集：改訂ニューグローバル化学基礎+化学(東京書籍)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>①その日のうちに復習しよう！ 定期考査までの授業回数が少なく、1回当たりの授業内容が盛りだくさんである。専門用語も多く、計算もあるので、後回しにしてしまうと大変なことになる。その日学んだことは必ず復習すること。中学校の理科で学んだことを高校ではより詳しく学習していくため、難しいイメージを持つかもしれないが、化学は私たちの生活にあふれており、化学に支えられていることもたくさんある。まずは、身近にあるもの(物質)に目を向けて、これから始まるミクロの世界に飛び込んでいこう。</p> <p>②自分なりの学習スタイルを！ 高校の学習は「暗記」だけでは通用しなくなることも多々ある。公式に当てはめるだけでは解けない問題もたくさんあるので、「知識の蓄え」「考え方の理解」「学んだことを生かす」に着目して自分なりの学習スタイルを見つけよう。不安なことは化学の先生に相談すること。</p> <p>③実験は貴重な体験！ 多くの薬品や器具を使って実験を行う。結果だけでなく、途中経過にも注意して、予想を立てながら取り組み、実験中の変化は自分の目で見て、必ずメモを取り、探究活動に取り組んで欲しい。実験は貴重な体験である。</p>

2 学習の到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質がさまざまな場面で人間生活にかかわり、役立っていることを理解する。 2. 物質とその変化への関心を高め、科学的な見方や考え方を養う。 3. 目的意識をもって観察・実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につける。 4. 化学の基本的な概念や原理・法則を日常生活や社会と関連付けて理解する。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:観察・実験の技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	課題や問題集の提出及び記述内容の分析 行動観察	考査 課題や問題集の記述内容の分析	考査 実験ノート の記述内容の分析 行動観察	考査 小テスト及び再テスト
使 用 教 材	授業：使用教材のうち教科書と資料集の2点は必ず授業の際に用意すること。どちらも写真や図など、理解を助ける資料が豊富なので、家庭学習でもこまめに自分で開くこと。 家庭学習：問題集は各自で用意した演習用ノート(管理上の問題からルーブリーフなどは避ける)に解くこと。問題集は原則として授業中に使用しない。※定期試験前の課題は基本的にノートで提出。			
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点70~80%程度、平常点30~20%程度です。				

平成31年度 理科

教科	(学)SS理数	科目	(学)SS生物	単位数	2単位	年次	1年次
校内名称	生物基礎			ユニット数	1.5	必選別	必
使用教科書	高等学校 生物基礎 (第一学習社)						
副教材等	六訂版 スクエア 最新図説生物(第一学習社), 改訂 ニューグローバル 生物基礎(東京書籍)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>どの教科にも言えることではあるが、授業のスピードは速い。授業中は教科書、図説などを広げて講義を聴き、どんなことも聴きもらさないぞ、という気概をもって臨んでほしい。また、生物学はいろいろな知識を必要とするので、ふだんから新聞や雑誌、図書などを積極的に読み、最新のニュースをどんどん取り入れる努力が必要である。</p> <p>授業について ア. 授業中は集中する。すでに習ったことで忘れていた事項が出てくればすぐに教科書や図説を見直して確認する、という心がけが大切である。</p> <p>イ. ノートは要領よくとる。単に黒板に書かれたことをプリントに写すだけではいけない。必要だと思ったことは自分なりに判断して書き込もう。</p> <p>ウ. 疑問点はすぐに質問する。わからないことが出てくれば、そのままにしておかず積極的に先生に質問して解決しよう。</p> <p>実験について ア. 実験ではいろいろな薬品や器具を用いることが多い。これらの薬品や器具類をいい加減に扱うと危険な場合もあるので、実験室では静かな態度で先生の指示を聞き、注意は必ず守ろう。</p> <p>イ. 実験の目的をしっかりと理解し、結果を予想しつつ実験を進め、結果を正確に記録して考察しよう。</p>	<p style="text-align: center;">大学受験との関係</p> <p>生物基礎は理科のセンター試験の受験科目のひとつとなる。文系学部へ進学することになる人は生物基礎を他の理科の基礎科目とともにしっかり学習することになり、理系学部へ進学する人は2、3年で学習する生物と他の1科目を受験科目とするのがふつうである。大学・学部によっては生物を必須とする学部や、生物では受験できない学部などがある。自分の希望する大学学部の受験科をよく調べておくことが重要である。</p>
---	--

2 学習の到達目標

生物体の多様性と共通性を理解するとともに、生きるためのエネルギーの獲得のしくみや親から子への遺伝現象に隠された法則性を理解する。また、外部環境の変化に応じた恒常性維持のしくみを理解する。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	実験レポートや問題演習の提出及び記述内容の分析・行動観察	考査 実験レポートや問題演習の記述内容の分析	考査 記述内容の分析 行動観察	考査 アチーブメントテスト 小テスト
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、考査点80%程度、平常点20%程度です。				

平成31年度 信念〔まこと〕

教科	(学)SS理数	科目	信念〔まこと〕	単位数	1単位	年次	1年次
校内名称	信念〔まこと〕			ユニット数	0.5u	必選別	必修
使用教科書	なし						
副教材等	課題研究メソッド・ノート（啓林館）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

学校設定科目「信念〔まこと〕」では国語科・英語科・情報科の教員により、研究者として必要なスキルである論文作成能力、プレゼンテーション能力を養成する。課題の設定方法、情報の収集方法、英語による論文作成、発表の仕方について学習し、相互批評を取り入れた学習を行う。日常的に新聞・ニュース等で様々な事柄に対する関心を高めると共に、学会や講演会などに積極的に参加し、主体的に情報収集を行う習慣をつけてほしい。

2 学習の到達目標

研究者として必要なスキルである論文作成能力、英語プレゼンテーション能力を養成し、2年前期の「理想〔のぞみ〕」、2年後期から3年前期にかけての「サイエンス探求」において必要な素地を養う。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:課題設定力	b:研究基礎力	c:表現力	d:応答力
観 点 の 趣 旨	問いの設定 研究対象を正しく理解し、深い問いを設定している	資料やデータの収集と典拠の明示 実際に周到な調査を行っている、もしくは正確な資料が集められている。また典拠が明確に示されている。	英語による発表の技法・発表の態度 発表は自信に満ちており、優れた発表技法を持っている。また聴衆に配慮した発表ができており、聴き手の集中力を途切れさせない工夫が見られる。	質疑に対する応答 質疑の趣旨を理解して、シンプルかつストレートに応答できている。
評 価 方 法	課題設定シート ・設定の理由 ・設定の意義 中間報告振り返り（レポート） ・発表後の分析 ・課題の今後の展望	発表レジュメ ・収集資料の概要 ・典拠の明示 スライド資料 ・典拠の明示	プレゼンテーション スライド資料	プレゼンテーション後の質疑応答
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。評価点の割合は、平常点100%（提出物・プレゼン等により評価）です。				

4 学習の活動

期間	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	課題設定・発表の技法	課題設定	○				研究対象を正しく理解し、深い問いを設定している。	課題設定シート 中間報告振り返りレポート
		資料収集		○			周到な調査を行っている、もしくは正確な資料が集められている。また典拠が明確に示されている。	中間報告会
		課題設定中間報告会	○		○	○	研究の意義を明確に理解し、それを的確に説明することが出来る。	中間報告会
		発表の技法について			○		聴衆に配慮した発表について理解し、聴き手の集中力を途切れさせない工夫を学んでいる。	中間報告会
後期	発表準備	発表原稿・スライド作成	○	○	○		研究対象を正しく理解し、正確な典拠を伴って発表原稿・スライドの作成を行っている。また英語の表限力も豊かである。	発表前に原稿およびスライド資料を提出
		最終プレゼンテーション			○	○	聴衆に配慮した発表について理解し、聴き手の集中力を途切れさせない優れた工夫が見られる。また質問の趣旨を十分に理解し、シンプルかつストレートに応答している。	最終プレゼンテーション

※ 表中の観点について a : 課題設定力 b : 研究基礎力 c : 表現能力 d : 応答力

なお、1年サマースクール(阪大研修)(8月)、文化行事(10月)、ワークショップ(1月)も信念(まこと)の授業時間とする。